

令和6年3月吉日

保護者様

和みの学び舎  
世田谷区立奥沢中学校  
校長 高林 敏彦

## 令和5年度の改善結果および令和6年度に向けた改善方策について

早春の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

さて、令和5年度奥沢中学校学校関係者評価の結果及びその分析について、学校関係者評価委員会より報告を受け、その課題に対する学校としての改善策について、下記の通りに報告いたします。

なお、学校関係者評価委員会よりの報告、各項目の評価結果につきましても本校ホームページ上に掲載しますのでご覧ください。

### 記

#### 1 令和4年度改善方策を受けた改善結果について

学校関係者評価委員会から報告を受けた改善方策として以下のこと実施いたしました。

##### ① ICTを含む家庭における学習方法について

改善方策：A I型教材を計画的に活用するとともに、タブレットを活用した課題提出を進める。

各教科で、単元の内容の復習等、時期に合わせてA I型教材の課題を生徒に提示し、取り組ませる。

授業の内容と連携することにより、意欲的に活用しやすくする。

各教科において、生徒に提示した課題をタブレットで提出する機会を増やす。

結果： 生徒アンケート「私は、家庭で宿題やタブレットなどのICTを利用している学習をしている」56票  
→65票

分析： 1年生58.7票、2年生67.4票、3年生71.0票となっており、学年が上がるとタブレットを活用して課題に取り組むことが定着してきている様子が見受けられる。

また、自身の書いたノートやプリントを写真に撮って提出することにより、原本をもとに学習を進めることができる。教員にとっても、返却を急ぐことなく丁寧に評価することにつながるなど、生徒・教員の双方にとってICTの家庭における有効な利用方法となっている。

##### ② 登校意欲の喚起について

改善方策：グループエンカウンターや学年レクを各学期、計画的に実施する。互いを尊重し高めあう機会を増やすことで、学校への登校意欲の向上を目指す。

結果： 生徒アンケート「学校生活は楽しい」87票→87票

分析： 昨年度と変わらない結果となった。ただ、1年生84.8票、2年生86.0票、3年生89.4票となっており、学年が上がると充実した学校生活を送っている様子が見られる。エンカウンター

の場に限らず、学校行事や日々の教育活動においても、生徒が主体的にかかわり、自分たちで運営していく経験を積むことで、学校生活に楽しさや充実感を感じる生徒が多くなっていると考えられる。

ただ、高校受験の勉強のために3学期に休む生徒が多い状況は続いている。教室にいる仲間とともに過ごし、励ましあう人間関係を十分に作ることはできなかった。

## 2 令和6年度に向けた改善方策について

学校関係者評価委員会から、以下のような報告をいただきました。(各項目の考察及び総合所見より)

生徒の評価は、先生方の学習指導、生活指導、学校行事について80%~90%台と高い。生徒の評価で、「先生がていねいに指導している」が肯定の割合が高く、「先生たちは、生徒が相談しやすい」の肯定的評価が下がっているこのギャップについては今後の課題である。

先生方の生徒への指導の取り組み方が100%という数字で表されており、素晴らしいと感じた。先生方の作成された教材のレベルも高く、進路のための学習にも効果を上げているとのことである。それを、肯定的にとらえて学習、学校行事などに一生懸命取り組んでいる生徒たちの様子が感じられた。コロナ禍もなくなり、生徒たちは学校生活を楽しんでいるようだ。その反面小学校のときとは違い、保護者が学校から離れがちになるので、もっと学校に興味をもってもらえればと思う。

授業や進路指導、学校行事において先生方の高い水準での指導の結果が生徒の評価を受けており、生徒が受け身にならず積極的に考え、行動している姿が伺える。先生方の教材づくりにも工夫があり、授業の理解や進路のための学習に生かされている。

「キャリア教育」に関して、保護者と生徒・教員間でのギャップがあり、相談の機会を定期的に設ける必要がある。進路指導がしっかりしていると、新入生が増えるきっかけにもなる。

少人数の学校である面が、先生方の勉強面などの指導に良い方向に働いている。その反面、現在の小学校低学年から奥沢中学校の良さを知ってもらえるような工夫が必要で、生徒数の確保にも力を入れる必要がある。9年教育という観点からも「学び舎」の活動の活発化は大切である。

今後、校舎の建て直しが行われるが、奥沢中学の伝統的な良い面を維持しつつ、新しくなる環境で更なる発展が望まれる。

以上の報告を受け、改善方策として次の2点を来年度の教育計画に組み込み、教育活動の充実に努めてまいります。

### 【生徒が相談しやすい環境づくり】

改善策：学年や担任に加え、学校全体で生徒に対応する態勢を整える。教員が支援の必要な生徒への対応を学ぶ。

全校生徒を対象として、教員やSCなど、生徒が希望する大人と一対一で話をする機会を設けることにより、生徒が相談できる大人を増やす。また、校務の効率化を進めることにより、教職員の勤務に余裕を生み出し、生徒と丁寧にかかわる時間を増やす。また、校内において、特別支援教育の研修を進め、支援の必要な生徒との関わり方を学ぶことにより、生徒との良好な人間関係作りにつなげる。

### 【保護者・地域への情報発信】

改善策：HPや学校・学年だよりにおいて、進路や将来の仕事等、キャリア教育についての情報発信を増やす。

各教科で実施しているゲストティーチャーの取組みについて、HPや学校だより、学年だよりで発信するとともに、「すぐーる」を利用して保護者に向けて直接案内する。また、可能なものについては学校公開の時期と合わせ、保護者や地域の参観ができるようにする。